

29-13

特 20
720



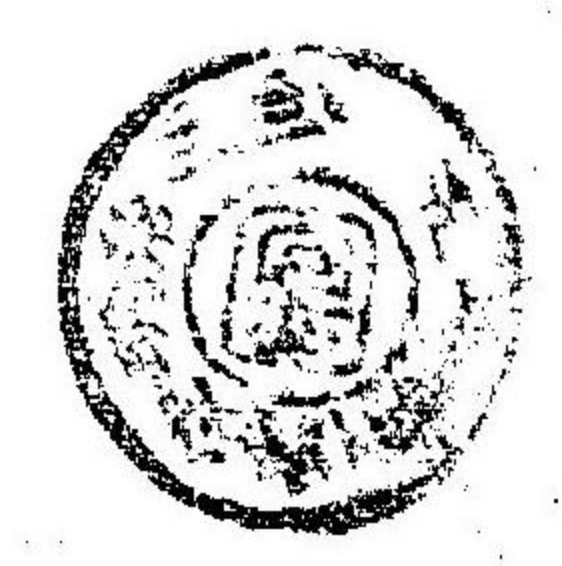
折返生絲
機及生絲
陶器及原
製紙及原
料

宮城縣農商工報第二十六號附錄

調查報告

明治三十三年二月

宮城縣內務部第四課



宮城縣農商工報第廿六號附錄

目次

- 一 折返生絲ニ關スル調査報告 (今西直次郎)
- 一 機械生絲ニ關スル調査報告 (丹羽敬太郎)
- 一 陶器製造及原料調査報告 (細水松之介)
- 一 製紙及原料栽培ニ關スル調査報告 (野村彌久馬)

○宮城縣折返生絲ニ關スル調査報告

横濱生絲檢査所技師

今 西 直 次 郎

宮城縣下折返生絲ノ製造、共同荷造及共同販賣ノ實況ヲ調査シ之レカ改良ヲ圖ルノ目的ヲ以テ今回其視察ヲ小官ニ命セラレタリ依テ主要ノ製産地若クハ市場ニ臨ミ親シク營業者ニ接シ仔細ニ見聞セルモノト且折返生絲ノ仲次者タル主ナル外商ニ就テ其レカ賣買及需用上ノ利害ヲ討究シ彼是參照シ以テ前途改良ノ方針ニ關スル部見ヲ開陳セントス

伊具郡角田町ニ於ケル折返生絲ノ集散高ハ約六七百個ニシテ其品位ハ平均二等ニ屬シ其販路ハ概テ同町ノ仲次商若クハ福嶋ノ生絲出張員ニ買収セラレ一旦福嶋ニ輸送スルヲ例トス而シテ其仕向先ハ福井及川俣ニシテ横濱ニ輸送スル者ハ實ニ僅少ナリトス而シテ此折返生絲ノ前途改良如何ニ付テ營業者ノ意嚮ヲ窺フニ偶々會社組織ヲ以テ座繰製生絲ニ改良スルヲ説ク者アルモ其販賣上ニ於ケル利便ヲ得ルニ非レハ如何ニ改良ヲ加フルモ得テ其實効ヲ奏シ難キヲ以テ寧ロ從來ノ習慣ニ放任スルヲ可トスルモノ、如シ蓋シ其理由トスル所ハ去ル明治十八九年ノ交強制的共同販賣ノ實行セラレ、ニ際シ外商ニ對シ其聲價ヲ博スルコト能ハス或ハ其荷數僅少ニシテ販賣ノ利益少ク或ハ相場ノ下落ニ遭遇セシ爲メ賣行其宜シキヲ得スシテ遂ニ失敗ヲ以テ終リシ困憊ニ逢着セシニ由ルナルハシ

刈田郡白石町ニ於ケル折返生絲ノ集散高ハ凡ソ千個ニシテ品位ハ二等ニ屬スルモノ多シ當地ニ於ケル主ナル營業者カ折返生絲ノ前途改良ニ關スル意嚮ハ近年器械製絲ノ需用漸次増進スルニ隨ヒ其製絲經濟ノ上ニ於テ著ルク利益アルヲ看破セルニヨリ多數ノ有志者ハ從來ノ製絲法ヲ一變シ三拾萬圓ヲ資本

トシ二百人繰ノ一大製絲株式會社ヲ組織スルノ準備中ニシテ定款ノ如キモ己ニ其編成ヲ終リ株主應募者モ豫想外ニ甚々多シ尤モ三拾万圓ノ内二拾万圓ハ製絲ノ業ニ充テ拾萬圓ハ羽二重ノ業ニ供スルモ其經濟ハ分業法ニ據リ之レヲ區別スト云フ故ニ同郡ニ於ケル製絲業ノ方針ハ尙ホ多少折返業ヲ營ム者アルトスルモ概シテ器械製絲ニ一定改良ヲ企圖スル者多シト謂フヘシ

杜鹿郡石卷町ニ集散スル折返生絲ハ約六百個ニシテ内三分ハ郡内ノ產出ニ屬スルモ其過半七分ハ隣郡ヨリ搬入セラレ品位ハ二等ニ屬スルモノ多シトス當地ニハ共同荷造所ノ設置アリテ賣買者ノ委託ニヨリ荷造ヲ爲スモノトス金鹿、銀鹿等ノ商標ヲ付シテ橫濱ニ直輸スル者アルモ多クハ福島商人ニ買收セラル、ヲ例トス而シテ折返生絲ノ前途ニ付テ當業者ノ意嚮ヲ窺フニ從來用ユル製絲器械ノ要部ヲ改造シ共同場返ヲ施スヘキノ必要ヲ説クモノアリ或ハ此際姑息ノ手段ヲ施サスシテ寧ロ器械製絲ニ改良スルニ如カスト唱フルモノアリテ區々一定セス爲メニ改良ノ實ヲ擧クル能ハス然レトモ當地ニ集散スル生糸ハ年ハ一年ニ減少スルノ傾向アルヲ以テ當業者モ大ニ其善後策ヲ講究シツ、アリテ現今新ニ繭乾燥業ヲ開始スルモノアルニ至ル等々其歩ヲ進メ來リ後日改良ノ實ヲ擧クルノ端緒ヲ發キタルモノト謂フヘシ

登米郡登米村ニ集散スル折返生糸ハ凡ソ四百個ニシテ品位ハ二等ニ屬スルモノ多シ當地ニハ共同荷造所ノ設ケアリテ商標ハ一羽、二羽、三羽、鷹等ヲ用ユ直接橫濱ニ輸送スル者アレトモ多クハ福島商人ニ買收セラル、ヲ例トス而シテ當業者中ニハ品位ノ改良ヲ施スニ共同場返所等ノ設置ヲ望ム者アリト雖モ亦一步進シテ器械製絲場ノ設立ヲ熟望スル者アリテ己ニ地所撰定其他設計ヲ準備スル者アリト雖ニ當地當業者ノ意見ハ到底器械製絲ノ方法ニヨラサレハ本分ノ利益ヲ得難シトスト雖モ折返生糸モ亦急速ニ廢スル能ハサルノ事情アルヲ以テ器械製絲ヲ設置セル後ハ其運轉器ノ餘力ヲ以テ共同場返所ヲ

運用シ近在ニ製産スル生糸ハ成ルヘク其荷造法ヲ一定シ輸出センコトヲ希望スルモノ多シ

栗原郡若柳町ニ集散スル折返生糸ハ凡六百個ニシテ品位ハ二等ニ屬スルモノ最モ多シトス販路ハ橫濱若クハ福島等トスルモノ多クハ福島商人ニ買收セラル而シテ生絲改良ノ前途ニ付テ當業者ノ意見ハ織度ヲ一定シ共同場返所ヲ設ケテ繰返ノ便ヲ圖ルノ方法ヲ施スヘキヲ説ク者アリ又如何ニ改良法ヲ施スモ販賣上最モ緊要ナル金融機關ノ設備ナキニ於テハ其効ヲ見ル能ハスト説ク者アリ意見區々ニシテ容易ニ其要領ヲ判知シ難キモ到底現狀ニ放任曠過セシムヘカラサルノ狀勢ヲ呈セルモノ、如シ

志田郡古川町ニ集散スル折返生絲ハ凡ソ四百個ニシテ品位ハ二等ニ屬スルモノ多シ其販路ハ半ハ當地ノ生絲商ヲ經テ橫濱及福島等ニ輸出シ半ハ福島ノ生絲商ニ買收セラル、ナリ而シテ折返生絲ノ將來ニ付テ當業者ノ意嚮ヲ聞クニ到底現狀ニ放任スヘカラサルハ彼等ノ輿論ナリト雖モ其改良ノ手段ニ至テハ組合ニ於テ成ルヘク共同場返所ヲ製造者ニ接近セシメ其場返法ヲ便利ナラシムルノ方法ヲ施スヘキヲ説クモノアリ又上州座繰製造場ノ組織ニ模倣シ一社トシテ團結スルニアラサレハ所謂一定ノ生絲ヲ製造スルコト能ハサルヲ説クモノアリ要スルニ從來ノ折返製造者ハ他ノ生絲ノ品位價格等ニ比シテ其製絲法ヲ改良スルノ念ハ年ハ一年ヨリ切ナルカ如シ又當地ニハ米屋製絲場ノ設置アリテ器械製絲ノ優美ナル模範ヲ示シツ、アルヲ以テ當業者中ニハ實際其利ヲ感知セルモノアリト雖モ其資本ト其組織トニ付テハ大ニ考按ヲ要スルモノ、如シ

以上各所市場ニ集散セル折返生絲ハ年々凡ソ三千六百個ニシテ橫濱福井及川俣ニ輸送スルモノ多クハ福島産ノ名稱ヲ付テ賣買セラル其製造及賣買ノ實況ヲ觀察スルニ養蠶家ハ從來ノ座繰器ヲ以テ各自適宜ニ繭ノ粒數ヲ定メ之ヲ製絲シ之ヲ揚返シ而シテ最寄ノ市場ニ搬出シ又ハ行商ニ販賣スルヲ以テ如何ニ之ヲ捻造ニ改メ或ハ荷造ヲ一定ナラシムルモ到底織度ノ整齊ニシテ品質ノ善良ナル生絲ヲ製出スル

コト能ハサルハ炳然トシテ明ナルヤ必セリ故ニ先ツ器械ノ改造ト製絲法ヲシテ完全ナラシムルハ勿論ニシテ内外需用上最モ大切ナル要務ナリト信ス

聞説折返生絲ノ特色トスル處ハ其絲質ノ強靱ニシテ光澤ノ清美ナルト價格ノ割合ニ廉ナルトニヨリテ需用者ノ最モ意氣ニ投合スル處ナリ而シテ其缺點トスル處ハ前記織度ノ不齊ニシテ繰返ノ困難ナルハ勿論殊ニ近年折返生絲ノ製産地ヲ異ニセルモノヲ混合シタルハ需用上最モ嫌惡スル處ナリ本年ノ如キハ生絲ノ好況ニ乘シテ多額ヲ製造スルニ隨ヒ益々其弊ノ甚キヲ見ル已ニ佛國ニ輸出セルモノニ對シテ他日其苦情ノ來ランコトヲ恐レツ、アルノ姿ナレハ今後之ニ對スル改良策ヲ施スニ非ラサレハ益々支那産ノ座繰絲ヲ代用スルニ至ラント云フ

由是觀之折返生絲ノ改善ヲ圖ルハ現時ノ急務ナリト信ス而シテ今回視察セル各所ノ狀況ニ付テ改良法按テ呈スルニ先チ數年前強制ノ共同揚返及共同販賣ノ實績ニ鑑ミルニ生絲販賣其宜シキヲ得サリシ爲メ遂ニ失敗ヲ以テ終レルカ如シト雖モ其目的タルヤ販賣上適切ナル方法ナリシモ一時ニ器械ヲ新設セラルカ故ニ其裝置ニ缺點アルヲ免レヌ或ハ検査人ノ不充分ニシテ監督其宜シキヲ得ヌ或ハ生絲販賣ノ時機ヲ失セル者アル等幾多ノ原因ニヨリ遂ニ其目的ヲ達スルニ至ラザリシハ甚々遺憾トスト雖モ他縣ニ行ハル、會社ノ座繰製造家ノ經歷ニ比スレハ其生絲ノ聲價ヲ博スルニ至ラシムルノ耐忍少カリシ結果遂ニ優勢ナル福島産ニ伴隨スルノ已ムヲ得サルニ至リタル者ナリ而シテ今更ニ此方法ヲ再興センカスル強制法ノ到底施行スヘカサルハ世人ノ已ニ克ク知ル所ナリ果シテ然ラハ自治ノ方法ヲ以テ假リニ組合ヲ組織シ製絲ノ方針ヲ定メ或ハ成ルヘク織度一定スルノ方法ヲ示シ或ハ製造家ノ最寄ニ共同揚返所ヲ設ク或ハ共同荷造所ヲ置キ以テ成ルヘク品位ノ一定ヲ圖リ而シテ其生絲ヲ共同販賣ニ附スルモ其土地ノ有力ナル商人ニシテ常ニ能ク之ヲ買收シ直接需用地ニ輸送スルニ於テハ必スヤ改良ノ効ヲ奏スヘシ

ト雖モ凡ソ賣買ノ事ハ利益ヲ目的トスルニ外ナラサルヲ以テ何人ト雖モ其高價ナル方ニ向テ賣渡スハ自然ノ常情ナルヲ以テ鞏固ナル自治ノ共同販賣ノ方法行ハレサルニ於テハ組合員ハ個々利益ノ多キ方ニ向テ賣渡ス弊ニ陥ルヤ必セリ若シ此弊ニシテ底止スル處ナクハ福嶋地方改良折返ノ多數ナル荷物ニ混同シテ輸出スルノ利益アルヲ以テ勢ヒ福嶋ノ産トシテ販賣スルヲ得策トセサルヲ得ヌ故ニ宮城縣折返生絲ノ改良ヲ施シテ其實効ヲ奏セント欲セハ器械ノ改造監督者ノ養成等ハ勿論ナレトモ又當業者ノ一致シテ成ルヘク多數ノ生絲ヲ共同販賣スルニアラザレハ又々數年前ノ覆轍ヲ見ルニ至ルヤ必セリ仙北地方ニ於テハ器械ノ改造及共同揚返ヲ施スニ至ラハ漸次共同販賣ヲ爲スニ至ラントノ豫想ヲ施スモノアレトモ到底製造家一致團結シテ多數ノ荷物ヲ製造シ以テ共同販賣ノ組織ヲ先ニスルニ非ラサレハ如何ニ獎勵ヲ設ケルモ唯單ニ徒勞ニ屬スヘシトノ恐レアルノミ結局ノ改良ノ實ヲ擧ゲントセハ先ツ織度ヲ整齊セシムルコト繰返ヲ容易ナラシムルコトニ就テ必要ナル監督ノ方法ヲ設ケサルヘカラス其監督宜シキヲ得ルニハ各所ニ會社ヲ組織シテ成ルヘク荷數ヲ揃ヘ各自責任ヲ以テ共同販賣スル方法ニ據ラサルヘカラス是レ即チ折返生絲ノ現狀ニ對シ又外商ノ注意ニ關ハル海外需用上改良ヲ要スルノ一法案ナリトス

爾テ宮城縣下ニ産出スル繭質ノ如何折返生絲ノ絲質ヲ鑑レニ海外需用者ノ最モ嗜好ニ適スルカ如キ光澤ノ美ニシテ強力ノ多キハ製絲工業上ノ天賦ノ幸福ヲ持有スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ外商カ其特質ニ對シテ比較的ニ廉價ナルヲ好シテ之ヲ買收スルハ自然ノ勢ニシテ需用者モ亦特益アルニ由ルヘシ然レトモ本來製絲ノ改良ハ大ニ此點ニ向テ注意セサルヘカラスモノアリ今回小官カ各所巡回中折返生絲改良ノ方法ニ付キ研究スル處ニヨレハ當業者中寧ろ器械製絲場ヲ設置スルノ良策ニシテ己ニ其準備ニ着手スル者アルノ好機會ニ際シテ一時ノ彌縫策ニ過キサル共同揚返等ノ方法ニ向テ補助金ヲ

支出スルカ如キハ眞ニ得策ト云フヲ得ス宮城縣下ノ如キ原料ノ良好ナル弊實ノ少キ前途有望ノ地ニ在
テハ所謂分業法ノ利益ヲ主トシテ確實ナル製絲業ノ方針ニ進ムルノ得策ナルヲ信スルナリ人或ハ云ハ
ン器械製絲ハ資本ノ多キヲ要シテ座繰改良ハ最モ容易ニシテ費用ヲ要セスト其言素ヨリ然レトモ
近年關西地方ニ於ケル器械製絲ニ改善ヲ加ヘタル一會社ノ實例ヲ舉ケンニ初メ養蠶家ハ戸々別々ニ其
繭ヲ製絲シテ共同揚返所ニ廻付シテ之ヲ繰返シ其織度ヲ檢シ次ニ肉眼検査ヲ施シテ等級ヲ定メ以テ
共同販賣トシテ横濱ニ輸送セルニ其荷數ノ一定セルカ故ニ座繰トシテハ大ニ好評ヲ博スルニ至レリ然
ルニ其社ノ存立セル一郡内ノ蠶種ハ年次改良ヲ加ヘ繭質モ殆ント一定スルニ當リ戸々別々ニ繰絲スル
カ如キハ監督上甚シキ手數ヲ増スノミニシテ到底純一ナル品位ヲ製造スル能ハス且ツ本分ノ利益ヲ得
難キヲ看破シタルヲ以テ社員數百名ハ一株ヲ二十圓トシ器械ハ要部ヲ鐵製トシ他ノ大部分ハ木製トシ
テ一大製絲會社ヲ組織シタルニ其生絲ノ價格ハ以前ニ比シテ四五圓増スニ至レリ創業以來僅カニ
二ケ年ヲ經テ創業費ヲ消却シ且ツ特約販賣ノ方法ニヨリテ本年ノ如キハ一割ノ配當ヲ爲シ更ニ一萬圓
餘ノ積立ヲ爲スニ至レリ蓋シ其好結果ヲ得タルハ當業者ノ一致ト監督者ノ宜シキトニ由ルヘシ
由是觀之其土地ノ人心一致スレハ敢テ大資本ヲ要セスト雖モ器械製絲ヲ施ス決シテ難シト云フヘカラ
ス之ヲ要スルニ宮城縣下ノ養蠶製絲ハ前途益々有望ナルコトハ前陳ノ如シト雖モ熟々當業者ノ現狀ヲ
觀察スルニ蠶絲經濟ニ關スル知識交換ノ道尙ホ未タ全ク開ケサルヲ見ル故ニ今後折返生絲ヲ改良スル
ニハ此際彌縫ニ属スル一時ノ獎勵法ヲ施サスシテ最モ確實ナル製絲ノ方針ヲ定ムルヲ急務トス之ヲ定
ムルニハ當業者ノ自動的働作ヲ起サシメサルヘカラス而シテ其之ヲ起サシムルニハ多少ノ補助ヲ要ス
ルコト之レカ急務トスルノ方法二種アリ第一ハ各郡ニ當業者數名宛ヲ撰拔シ之ニ相當ノ補助ヲ與ヘ以
テ全國製絲場ノ組織及其營業ノ實況ヲ觀察セシメ且ツ其製絲カ如何ニ横濱ニ賣行クヤ其結果ヲ調査セ

シムルコト第二ハ製絲傳習所ヲ設ケテ器械ノ良否、監督者及教婦ノ養成ヲ爲スコト以上製絲場ノ組織
ヲ觀察シタル後ハ當業者ニ於テ或ハ獨立或ハ合資ノ方法ヲ以テ各地ノ狀況ニヨリ各々設計ヲ爲スニ至
ラン其時ニ當リ萬一補助ヲ要スルノ場合ニ遭遇セハ宜シク之ヲ實行スルモ敢テ晚シトセサルナリ又之
ヲ設計スルト否トニ拘ラズ到底器械製絲ノ年次増進セシムルノ趨勢ヲ呈セシムルニハ製絲工業上最
モ至難トスル監督者及ヒ工女養成ノ準備ヲ爲サ、ルヘカラス之ト同時ニ最モ簡便ナル製絲器械ノ模範
ヲ教示スルハ最モ急務ナリト信スルナリ今回巡回ノ日數甚タ少クシテ其事情ヲ知悉シ難キ點甚カラス
ト雖モ折返生絲ノ前途ニ對シテ之ヲ概言スレハ當業者戸々別々ノ自由販賣ヲ廢シテ自治的共同販賣ヲ
爲シ多少ノ變動ニ挫折スルコトナシ維持繼續スルニ至ラハ宮城縣ノ改良座繰トシテ市場ニ好評ヲ得ル
ニ至ルハ期シテ俟ツヘシ夫レ然リ然リト雖モ只恐ル各所觀察ノ結果ニヨレハ過半ノ當業者ハ每户自由
販賣ヲ希望スルノ傾向アルヲ以テ獎勵ノ効力甚タ少カラシコトヲ故ニ蠶業上弊習ノ少キ宮城縣將來製
絲ノ方針ハ寧ろ器械製ニ進メラレシコトヲ切ニ希望ノ至リニ堪ヘズ此段及報告候也

○宮城縣機械生糸ニ關スル調査報告

東京蠶業講習所技手

丹羽敬太郎

機械製絲業ニ關スル諸般ノ事項ヲ調査スヘキ命ヲ受ケ明治三十二年九月七日程ヲ起シ先ツ刈田郡ヨリ始メ爾來日々順次柴田伊具亘理名取牡鹿桃生本吉登米栗原遠田加美玉造志田ノ各郡ヲ巡廻シ同月三十日ヲ以テ全ク程ヲ了レリ而テ斯ノ間視察セシ製絲場ハ即チ左ノ如シ

名取郡生出村製絲場

場長 長尾四郎右衛門

漚 鐘 ワツゴン式 徑三尺六寸
 運 器 水車 長八尺
 揚 絲 器 單絲 二十窓
 一ヶ年製造高 八窓
 工女一人一日ノ繰高 五十二貫六百六十八匁
 三十五匁乃至四十匁
 販 路 白石米竹氏等ニ賣却ス
 續 度 十二乃至十四
 生絲ニ對スル精絲ノ歩合 未詳
 生絲百匁ノ繰賃 五十錢

燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 本製絲場ハ已ニ本年ノ事業ヲ了リ休業シ居リシヲ以テ詳細ノ模様ヲ知レニ由ナシト雖トモ場長及ヒ現業員ノ說ク所ニ徵スレハ尙甚々幼稚ニシテ將來改良ヲ要スヘキ所頗ル多キヲ覺ユ又瀛鐘ヲ始メ其他ノ器械ニ至ツテモ不備ノ点尠カラス大ニ刷新ヲ加フヘキモノトス

名取郡中田町山川製絲場

持主 名川長治

瀛 鐘 ワツゴン式 徑及長未詳
 運 器 瀛機
 揚 絲 器 單絲 五十窓
 一ヶ年製造高 二十窓
 トス
 一ヶ年ノ製造高ヲ詳カニセスト雖モ目下一日ノ製造高ハ一石八斗内外
 工女一人一日ノ繰高 三十五匁乃至四十匁
 販 路 横濱或ハ地賣
 續 度 十二
 生絲ニ對スル精絲ノ歩合 貳割五分乃至三割
 生絲百匁ノ繰賃 四十錢
 燃 料 木炭ヲ用イ一日ニ百八十貫目ヲ消費ス此代金一圓六十錢斗

干 燥 裝 置 炭 火
就 業 時 間 凡 十 二 時 間

本製絲場ハ構造頗ル不備ニシテ揚棒ヲ繰絲場ノ二階ニ設ケ常ニ繰鍋及ヒ煮鍋ヨリ放發ナル水蒸氣ヲ受クテ斯業尤モ忌ムトコロノ水氣ハ常ニ揚棒ニ付着スルヲ以テ製絲粗硬ニシテ手觸リ甚タ惡ク加フルニ色澤暗褐到底良好ナル織物ノ材料トナルニ足ラス且繰絲法ノ如キモ所謂信州流ニシテ繰湯殊ニ熱キヲ以テ繰量ト繰質トヲ害スル勢カラヌ又機械ノ如キモ木製粗造ノモノナルカ上ニ大棒小棒共悉ク四角ヲ用ユルヲ以テ梓角頗ル固着ノ患アリ將來大改良大刷新ヲ加フルニ非ラサレハ以テ良絲ヲ製出スル能ハサルヘキヲ信ス約言スレハ本縣下機械製絲場中本場ノ如キハ最劣等ノモノト稱スヘキナリ

牡鹿郡石卷町干燥場

持主 武山 芳右衛門

本干燥装置ハ從來炭火干燥ヲ慣用シタレモノニ比スレハ稍其ノ面目ヲ改メシト雖モ未タ以テ宜ヲ得タルモノト云ヘカラス且ツ此地ハ縣下有數ノ繭ノ集散地ナルカ故ニ其ノ繭仲買人カ使用スルモノトシテハ其規模狭少ニシテ用ヲナス甚タ勢カレヘント信ス

桃生郡寺崎第二大成館

持主 西條 芳三郎

漚 運 轉 中 釜 徑長未詳
器 器 瀟 機
揚 絲 器 單 繰 四十七窓
棒 二十六窓

一ヶ年製造高 六十個乃至七十個

工女一人一日ノ繰高 五十乃至前後

販 路 横 濱

織 度 十 二

生絲量ニ對スル緒絲量 一割八九分乃至二割一二分

生絲百々ノ繰賃 三十五錢乃至六錢

燃 料 石炭ヲ用イ一日ニ千斤ヲ消費ス此代價凡ソ二圓八十錢

干 燥 裝 置 炭 火

就 業 時 間 十二時間

本製絲場ハ本縣下製絲場中ニ於テハ稍整頓セルモノ、一ナリト雖モ其繰絲法モ未タ以テ一定セス或ハスグテ付ケト稱スル法ヲ行フモノアリ或ハ卷付ケト稱スル法ヲ行フモノアリ區々ニシテ一ナラス且ツ流鏝ハ頗ル強壓ノ蒸氣ヲ使用スルヲ以テ甚タ危險ノ点アリ如斯ハ宜ク改良スヘキ要点ナリトス

本吉郡横山村第一大成館

持主 西條 芳三郎

漚 運 轉 中 釜 徑及長未詳
器 器 瀟 機
揚 絲 器 複 繰百窓
一ヶ年製造高 百二十個乃至百三十個

工女一人一日ノ繰高 四十五匁乃至五十匁

販 路 横濱

織 度 十二

生絲量ニ對スル緒絲量 二割内外

生絲百匁ノ繰賃 三十六匁内外

燃 料 薪材

干 燥 炭火

就 業 時間 十二時

本製絲場ハ本縣下製絲場中其創立最舊ク且ツ器械ハ總テ舊式ノ裝置ト雖モ構造稍完全ニシテ多少ノ改良ヲ加フルルハ頗ル有望ノ製絲場ト爲スヲ得ヘシ然レモ其繰絲法ニ至ツテハ實ニ區々ニシテ第二大成館ト敢テ異ナルアルヲ見ス是第一着ニ刷新ヲ施スヘキ事項ナリトス

本製絲場ハ第一第二共ノ選下夕爾ヲ以テ機械製絲ノ外釜出坐繰ノ法ヲ行ヒ目下是ニ從事スル工女百二十三人アリト云フ是機械製絲ヲ精良ニスルノ一段ニシテ實ニ賞スヘキ事ナリトス

本吉郡志津川町旭館

社長 高橋長十郎

事務長 佐々木善吉

汽 運 器 釜
コルニツシユ 徑四尺長十二尺壹個
徑三尺長十二尺壹個

繰 絲 器 複繰三百窓

揚 一ヶ年製造高 百〇四窓

工女一人一日ノ繰量 四百五匁ヨリ五十匁

販 路 横濱

織 度 十四

生絲量ニ對スル緒絲歩合 三割三分

生絲百匁ノ繰賃 三十八匁

燃 料 薪材

就 業 時間 十二時間

干 燥 炭火

本製絲場ハ本縣下第一ノ大製絲場ニシテ規模頗ル大ナリト雖モ固定資本僅ニ一萬圓ヲ以テ之ニ充ツルカ故ニ機械甚タ粗惡從テ繰絲法甚タ未熟ニシテ到底良絲ヲ製スル能ハス加フルニ大梓ハ六角ヲ用ユルモ小梓ハ四角ヲ用キ流鏝積立ノ構造烟突ノ高サノ如キモ大ニ學理ニ反スルヲ見ル宜敷ク改良ヲ加フヘキモノトス

本吉郡伊里前龍峯館

社長 山内彌五右衛門

汽 運 器 釜
ワフゴン
繰 絲 器 複繰三十窓

揚 一ヶ年製造高 八窓
 工女一人一日ノ繰量 二十個
 販 路 四十枚
 繰 度 横濱
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 十四
 生絲百目ノ繰賃 未詳
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 就 業 時 間 十二時間 (以下就業時間ハ大抵十二時間アルヲ以テ畧ス)

本製絲場ハ規模頗ル狭少ニシテ一ヶ年僅ニ二十個ノ生絲ヲ製スルニ過キスシテ從テ器械モ亦木製粗造多クハ旭館ヲ模倣セシニ過キサレハ未タ幼稚ノ域ヲ脱スル能ハサルナリ然レモ惡慣習ノ浸潤モ亦自カラ淺キヲ以テ今ニシテ是カ改善ヲ誨ユルアラハ純良ノ生絲ヲ製スル敢テ至難ニアラサルヘシ且社長山内氏ヲ始ノ工女モ亦改善ニ熱心ナリキ

本吉郡小泉村泉館

社長 及 川 新 藏

漚 罐
 運 器
 線 器
 漚 復漚三十六窓

揚 一ヶ年製造高 六窓
 工女一人一日ノ繰量 八個
 販 路 三十五枚乃至四十枚
 繰 度 横濱
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 未詳
 生絲百枚ノ繰賃 未詳
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火

本吉郡松岩村松易館

社長 鮎 貝 盛 徳
 副社長 及 川 貞 治

本製絲場ハ已ニ本年ノ事業ヲ終リシヲ以テ工女役員共悉ク不在ニテ僅ニ留守居一人在場セシノミナンハ其概略ヲ取調フルニ過キス然レモ大体ニ於テハ龍峰館ト大同小異ニシテ特記スヘキ点アルヲ見ス

漚 罐
 運 器
 線 器
 揚 一ヶ年製造高 十五個

工女一人一日ノ繰量 四十匁
 販 路 横濱
 繰 度 十二
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 未詳
 生絲百匁ノ繰賃 五十二錢
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 本製絲場モ亦前二者ト殆ント異ナル所ナクシテ繰絲法ノ如キハ龍峯館ニ比スレハ一層幼稚ノ域ヲ脱セ
 ス器械モ亦頗粗造ナリ殊ニ注意ヲ要スヘキハ本場ニ使用スル氣壓頗ル強度ニシテ七十五磅ヲ使用セリ
 如斯ハ普通製絲家ノ用ユヘキモノニ非ルカ故ニ宜敷注意ヲ加フヘキモノトス社員工女皆能ク改良ノ必
 要ヲ感シ居レハ將來頗ル望アル所ナリ

本吉郡氣仙沼製絲會社

社長 濱田 仁兵衛
 理事 大森 徳治

漚 鐵 ワツゴン 徑二尺七寸
 運 轉 器 流機
 繰 絲 器 複絲四十窓
 一ヶ年製造高 十八窓
 二十五個

工女一人一日ノ繰量 四十匁ヨリ四十五匁
 販 路 横濱
 繰 度 十一
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 未詳
 生絲百匁ノ繰賃 四十五錢
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 本製絲會社ハ本吉郡製絲家中ニハ稍一頭地ヲ拔キタルモノト云フヘシ器械ノ裝置ハ總テ不完全ノ域ヲ
 脱スル能ハスト雖トモ工女ノ技術稍熟シ繭ノ品質及ヒ干燥法モ稍宜キヲ得解舒ノ宜キハ本郡中第一ト
 稱スヘシ且社員工女トモ業務ニ熱心ニシテ將來有望ノ製絲場ト稱スヘシ只器械ハ宜ク速ニ改良ニ着手
 スヘキヲ要ス

本吉郡新月村新月館製絲場

社長 佐藤 忠兵衛

同郡同村新城製絲場

持主 千葉 忠右衛門

繰 器 六十窓
 繰 器 三十窓
 右兩製絲場ハ日割ノ都合ニテ親ク巡視スル事ヲ得サルヲ以テ詳細ヲ知ル能ハス
 本吉郡御岳村吉野館製絲株式會社

社長 佐藤 三九郎
 取締役 千葉 權兵衛
 同 佐藤 祐之助

流 運 鐘 ヲツゴン 徑四尺七寸
 絲 轉 器 器 流 機 長 十二尺
 揚 絲 器 六十八窓 複絲
 一ヶ年製造高 十六窓
 工女一人一日ノ繰量 三十個
 三十夕内外
 販 路 横濱
 度 十二
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 一割八分
 生絲百匁ノ繰賃 四十五錢
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 本製絲會社ハ赤痢病流行ノ爲メ休業シ居タルヲ以テ詳細ノ狀況ヲ知ルヲ得スト雖モ繰絲器ノ如キハ本郡中一般ノモノト大同小異ニシテ特殊ノ点アルヲ見ス只流鐘ハ本年新調セシモノニシテ他ノ製絲場ニ比スレハ大ニ安全ナルヲ見ル聞ク本年ハ他ニ移轉シテ新築ヲナスト果シテ然ラハ此際十分ノ注意ヲ加ヘ繰絲器ヲ刷新セハ大ニ見ルヘキモノアルニ至ラン

本吉郡山田村山田製絲合資會社
 業務擔當社員 菅原直藏

流 運 鐘 ヲツゴン 徑及長未詳
 絲 轉 器 器 流 機 複絲六十窓
 揚 絲 器 十五窓
 一ヶ年製造高 二十四五個
 工女一人一日ノ繰量 四十夕
 販 路 横濱
 度 十二半
 生絲量ニ對スル緒絲歩合 一割八九分
 生絲百匁ノ繰賃 四十五錢前後
 燃 料 薪材
 干 燥 炭火
 本製絲場ハ流鐘流機繰絲器共不備ノ域ヲ脱ヒス只本場ハ本縣下中各製絲家トハ大ニ其趣ヲ異ニセルハ繰絲釜ノ悉ク圓形ヲ用ユルニアリ從テ羨爾ノ法ニ亦他ニ異ニシテ頗ル不熟ノモノヲ索緒スルニアリ此ノ裝置及方法ハ伊勢地方ニ多ク行ハル、法ニシテ未タ以テ完法ト云ヘカラサルニ加フルニ本場ノ如キ干燥不備ノ謫ヲ以テ此法ヲ行フハ所謂無鹽ノ嘲ニ倣フ者カ宜敷ク改良ヲ加フヘキモノトス

登米郡米川村小野寺製絲場

持主 小野寺重太郎

漚	鐘	ワッゴン	徑四尺五寸
運	器	水車	長十二尺
揚	器	單線百窓	
一ヶ年製造高	杵	三十窓	
工女一人一日ノ線量	路	五十個	
販	度	三十七八匁	
續	度	橫濱及ヒ福島	
生絲量ニ對スル緒絲量		十三	
生絲百匁ノ線賃		未詳	
燃	料	薪材	
干	炭	薪材	
裝	炭	薪材	
燥	炭	薪材	

本製絲場ハ恰モ休業日ニ際セシヲ以テ工女技藝等ハ更ニ之ヲ知ルニ由ナシト雖機械裝置ハ總テ舊式ニシテ實ニ不備ノ域ヲ脱セス只流鐘ハ他ニ比スレハ稍宜キヲ得タリ然レモ杵ノ如キハ大小共悉ク四角ノモノヲ用ユルハ頗ル陳套ニ屬セリ此日主人小野寺氏不在ナリシヲ以テ別ニ改良ヲ示道スル能ハサリシハ甚タ遺憾ノ事ナリシ本場ノ如キハ將來拭目改良ヲナサレハ遂ニ人後ニ落ツルコトアラシ

此日途中森合村森盛館製絲場ヲ過キシモ前程ヲ急キシヲ以テ遂ニ視ルコト能ハス本場ハ單線式四十人線ナリト云フ

登米郡米谷村櫻水館製絲場

社長 千葉徳助

漚	鐘	ニルニツシユ式ノ變形セルモノ	徑及長未詳
運	器	流機	
揚	器	六十人線單線	
一ヶ年製造高	杵	二十八窓	
工女一人一日ノ線量	高	二十個	
販	路	四十匁内外	
續	度	橫濱	
生絲ニ對スル緒絲ノ歩合		十二	
生絲百匁ノ線賃		三割三分	
燃	料	薪材	
干	炭	薪材	
燥	炭	薪材	
裝	炭	薪材	
置	炭	薪材	

本製絲場ハ工女ノ技藝全縣ヲ舉ケテ比較スレハ敢テ拙ナリト云ヘカラス且ツ社長現業員共頗ル改良ニ熱心ナルカ故ニ將來頗ル有望ノ製絲場ト云ヘシ只器械ハ其裝置頗ル不備ニシテ殊ニ流鐘ハ頗ル危険ナリ即常用流壓六十磅ヲ用キ且ツ安全弁ノ上部分銅ヲ掛ケタル處ニ更ニ爐格桿ノ破片ヲ添加シタルカ如キハ實ニ危中ノ危ト云フヘシ此点ニ付テハ十分ノ注意ヲ與ヘ置キシト雖モ尙將來飽マテモ意ヲサランコトヲ要スルナリ

登米郡登米町共同荷造場
 本場ハ本年始メテ設立セシモノニシテ坐繰捻造及ヒ折返造ニシテ能ク品位ヲ選別シ凡ソ四種ノ商標ヲ付シ販賣セシト云フ本年ノ荷造高三百個ナリト
 岩淵製絲場及信用組合製絲場ハ前程ヲ急キシヲ以テ視察スルヲ得ス

栗原郡岩ヶ崎町精光館製絲場

持主 佐々木 慶助

流 運 釜 中釜ニテ火管水管ナシ 徑五尺 長十五尺
 器 汽機
 揚 絲 轉 器 八十窓單繰
 一ヶ年製造高 梓 二十八窓
 三十個
 工女一人一日ノ繰量 三十六畝
 横濱及福嶋
 度 路 十二
 繰 生絲ニ對スル緒絲ノ歩合 三割
 販 生絲百畝ノ繰量 三十三錢
 燃 料 薪材
 干 燥 炭 火
 本製絲場ハ汽機汽機其他繰絲機ノ裝置其式總テ舊式ニ屬スト雖モ其設備ハ稍完全ニシテ本縣下製絲場

中優ニ一頭地ヲ拔クモノト云ヘシ然レモ持主及現業員共斯業ニ對スル學術經驗ニ乏キヲ以テ隨テ工女ノ技術頗ル拙ニシテ且ツ販路ノ如キモ如斯ノ器械ヲ運轉シナカラ福嶋坐繰折返中ニ混入シテ販賣ヲナスカ爲メニ己ニ完全ナル六角形ノ大梓ヲ改メテ不完全ナル四角形ノモノニ爲サントスルカ如キ實ニ嘆息ノ至リナリ本日其場主佐々木不在ナリヲ以テ改良ノ必要ヲ指道スル能ハサリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ

栗原郡金田村栗原製絲株式會社

社長 高橋 權作
 副社長 菅原 兵治

流 運 鐵 鍋 徑三尺六寸 長十尺
 器 水車
 揚 絲 轉 器 單繰五十窓 二十八窓
 一ヶ年製造高 十四個
 工女一人一日ノ繰量 四十畝
 度 路 横濱
 織 度 十二
 生絲ニ對スル緒絲ノ歩合 二割二分
 生絲百目ノ繰量 三十五錢
 燃 料 薪材

干 燥 装 置 炭 火

本製絲場ハ汽鐘及ヒ繰絲汽機共甚タ不完全ニシテ殊ニ汽鐘ニ汽壓計ヲ用キサルカ如キハ實ニ危險ノ極ト云ヘシ且ツ工女ノ技術ノ如キモ猶幼稚ノ域ヲ脱スル能ハヌ宜ク大刷新ヲ加フヘキナリ

遠田郡田尻町製絲場

漚 鐘 ワンゴン 徑二尺七寸
運 器 水車 長六尺
繰 器 單繰五十窓
揚 器 三十窓

本製絲場ハ休業中ニテ僅ニ留守ノ老婆一人ノミナルヲ以テ詳細ノ景況ヲ知ル能ハス然レモ一見總テノ装置ノ不備ナルヲ知ルニ足レリ大枠ノ如キモ總テ四角枠ヲ用ユルモノ、如シ

加美郡小野田製絲株式會社

社長 今 野 忠 兵 衛

漚 鐘 ワンゴン 徑三尺五寸
運 器 水車 長十尺
繰 器 單繰四十窓
揚 器 十五窓
一ヶ年製造高 四十個
王女一人一日ノ繰量 三十五匁

多クハ自家羽二重ノ原料ニ用キ若シ殘餘アレハ福嶋川俣ノ羽二重經絲

ニ賣却ス

續 度 十四五

生絲ニ對スル緒絲ノ歩合 二割八分

生絲百匁ノ繰賃 四十五錢

燃 料 薪材

干 燥 裝 置 炭 火

本製絲場ハ汽鐘繰絲器等完全トハ稱スヘカラサルモ本縣下一般ノ製絲場ニ比スレハ稍上位ニ居ルモノト云フヘシ然レモ其製造品ハ悉ク内地用ニ供スルヲ以テ枠ノ如キハ或ハ六角或ハ四角ヲ混シ頗ル不規律ニ免カレス只殊ニ賃スヘキ点ハ汽壓ノ如キモ常ニ二十磅内外ヲ用キ更ニ危險ノ憂ナキノミナラス他ノ小製絲場ノ如ク二ヶ月若クハ三ヶ月ヲ以テ忽チニ休業ヲナスカ如キコトナク一ヶ年中少クモ十ヶ月以上ノ就業ヲナスノ点ナリ

加美郡宮崎村宮崎製絲場

持主 岩 淵 丈之助

漚 鐘 中釜フラン管三十二本 徑三尺六寸 長八尺

運 器 汽機 三緒單繰五十五窓

揚 器 二十四窓

一ヶ年製造高 三十二個

工女一人一日ノ繰量 四十五匁

販 路 横 濱
 生 絲 二 對 ス ル 緒 絲 步 合 三 割 三 分
 生 絲 百 匁 ノ 線 賃 四 十 一 錢
 燃 料 薪 材
 干 燥 裝 置 炭 火

本製絲場ハ汽鐘流機線器共別ニ稱スヘキモノナシト雖モ工女一人ノ線絲量ハ他ニ比シテ稍多キハ三緒線ヲ採用セシニ依ルヘク從テ工女ノ技術モ亦他ニ比スレハ稍上位ニ居ルモノ、如シ然レモ製絲場ノ構造宜ヲ得サル爲メ場内鬱濕ニシテ製出シタル生絲ハ水分ヲ除却スルコト十分ナラサルカ爲メ品位ノ点ニ於テ一段ヲ下スラ見ル宜ク改良スヘキ要點ナリ

玉造郡岩出山町西岩出山製絲會社

社 長 松 岡 馨 兒

運 轉 鐘 徑 三 尺 五 寸
 水 車
 揚 絲 器 三 緒 單 緒 五 十 窓
 一 ケ 年 製 造 高 五 十 五 六 個
 工 女 一 人 一 日 ノ 線 量 五 十 一 二 匁
 販 路 直 輪

度 十 四
 生 絲 二 對 ス ル 緒 絲 步 合 二 割 五 分
 生 絲 百 匁 ノ 線 賃 參 拾 三 錢
 燃 料 薪 材
 干 燥 裝 置 炭 火

本製絲場ハ本縣下製絲場中其創立稍舊ク且ツ小製絲場ニシテ一ケ年間事業ヲ繼續スルモノハ本場ト小野田製絲トアルノミ加之ナラス三緒線ヲ用ユルモノモ亦本場ト宮崎トノミ而テ直輪ヲ繼續スルモノハ本縣下獨本場アルノミ彼ノ器械線ノ絲ヲ以テ之ヲ福嶋ニ販リ其坐繰折返シニ混シテ販賣スルモノ、如キニ比スレハ其懸隔果シテ幾何ソヤ此等諸點ニ就テハ實ニ貴スルニ足ルモノナリ然レモ之ニ反シ汽鐘及繰絲器ノ構造ニ至リテハ頗ル不備ニシテ殊ニ汽鐘ノ烟突ハ徑九寸長十五尺ニ滿タス且朽腐殆ント用ニ堪ス爲メニ薪材ノ燃焼頗ル不十分ニシテ燃焼物ノ火粉爐格ノ前面ニ飛散スルカ如キハ殆トシテ汽鐘ニ對スル烟道裝置ノ一半ヲ失フタルモノト云ヘシ如斯ハ斷然改良ニ着手セサレハ恐ラクハ不測ノ害ヲ被ルコトアルヘシ

玉造郡岩出山町東岩出山製絲會社

社 長 松 岡 馨 兒

運 轉 鐘 徑 二 尺 五 寸
 水 車
 揚 絲 器 三 緒 單 緒 二 十 四 窓
 十二窓

一ヶ年製造高 三十個
 工女一人一日ノ繰量 五十一二匁
 販 路 直輪
 織 度 十四
 生絲ニ對スル緒絲歩合 二割五分
 生絲百目ノ繰賃 三拾參錢
 燃 料 薪材
 干 燥 裝 置 炭火
 本製絲場ハ前程ヲ急キシテ以テ巡視セザリント雖モ同社員某西岩出山製絲會社ニ來會シ居リテ以テ前條ノ各項ヲ聞取シナリ流籠繰絲器等ノ構造ハ更ニ西岩出山製絲會社ニ異ナルコトナリト云フ
 志田郡古川町米屋製絲場
 持主 鈴木 甚吉
 徑四尺五寸
 長 十二尺
 漚 鐘
 運 轉 器 汽機
 繰 絲 器 單繰二百窓
 揚 梓 七十窓
 一ヶ年製造高 二百參拾五個
 工女一人一日ノ繰量 四拾五匁
 販 路 橫濱

織 度 十二

生絲ニ對スル緒絲量 二割

生絲百匁ノ繰賃 三拾八錢

燃 料 薪材

干 燥 裝 置 通風燥殺式

本製絲場ハ明治廿八年ノ創立ニシテ諸般ノ構造敢テ新式ト稱スヘキニハ非ラサレモ之ヲ他ニ比スレハ稍完全セルモノト云ヘシ流籠ノ如キハ舊式ニ屬スト雖モ烟突ノ裝置宜ニ適フタルカ爲メ比較的燃料ヲ減スルノ實アリ加之場内清潔ニシテ空氣ノ流通トニ注意スルカ如キ又殺蛹干繭ニ通風式裝置ヲ採リシカ如キハ實ニ稱揚スヘキ點ナリトス只流籠機繰絲器ノ如キ漸次新式ヲ用ユル事トナサハ恐ラクハ本邦中有數ノ製絲家タル事ヲ得ン

以上本縣下各製絲場ヲ巡回シ親ク建築流籠及ヒ諸機械ノ構造ト工女ノ技術ト觀察シ又採業ノ順序、原量及燃料ノ買入方並ニ其消費法金融ノ事情、製品販賣ノ方法等ニ付略ホ是ヲ當局者ニ糾セシテ以テ稍大體ヲ知ルヲ得タリト雖モ如何セシ短時日ヲ以テ各製絲場ヲ巡視シタルカ爲メ素ヨリ遺漏ナキ能ハス然レモ本縣下一般ノ機械製絲業ヲ概括スレハ何レモ其諸機械共不備ニシテ大ニ改良ヲ要スヘキモノ多ク又工女ノ技術ニ至テモ養繭ヨリ索緒繰絲ニ至ルマテ尙頗ル幻稱ニシテ且ツ其法區々別々ナリ甚ダシキニ至ツテハ一場ノ内ニ於テ兩様ノ添緒法ヲ行フモノアリ如斯シテ一様ニシテ多量ナル精絲ヲ得ント欲スルハ到底爲シ得ヘキ業ニ非サルナリ加之ナラス工女一人一日ノ繰量甚少クシテ生絲ニ對スル緒絲量ノ頗ル多キハ實ニ驚クニ堪ヘタル所ナリ且ツ本縣下五六ノ製絲場ヲ除クノ外ハ皆一時新繭期節ニノミ本業ニ從事シ秋聲一ヒ到リ天高ク氣清キノ候ニ至レハ多クハ皆其ニ事業ヲ了ルヲ以テ常トセリ故

ニ一ヶ年間本業ニ従事スルノ日ヲ算スレハ僅ニ八九十日ニ過キス如斯シテ何ソ技術ノ熟練ヲ期スルヲ得ンヤ又諸装置ノ中尤モ流鏝ノ構造宜シキヲ欠キ流鏝ハ頗ル高度ヲ用キ其タシキニ至リテハ壓力計ヲ用キサレモノアリ安全弁ニ付スルニ更ニ不適當ノ重量ヲ以スルモノアリ又烟突ハ総テ常法ヲ失ヒ面積甚タ少キカ故ニ過分ノ燃料ヲ要スルモノアリ如斯シテ何ソ製産費ヲ低廉ナラシムルヲ得ンヤ又製産品販賣ノ事ニ至ツテハ小製絲家各自ニ割據シ織度ノ細大及ヒ緒止メ括造悉ク一定ヲ欠キ而シテ是ニ付スルニ各別ノ商標ヲ以テシ市場ニ販賣スルヲ以テ荷數隨テ少ク販路隨テ遠ク勢力隨テ少キカ爲メニ價額自カラ卑シ如斯シテ何ソ斯業圓滿ノ利益ヲ得ルコトヲ得ンヤ本吉郡新城製絲場ノ如キハ曩ニ其流鏝ヲ破裂セシメ爲メニ火夫大焦傷ヲ受ケタリト其因ヲ聞クニ安全弁ヲ麻繩ニテ緊縛シ該弁ヨリ蒸氣ノ漏出ヲ防キンカ爲ナリト是實ニ恐ルヘキノ極般鑑遠カラス各製絲場ニ注意スヘキ最要點ナリト信ス

然レモ本縣製絲業ノ此ニ至リシモノ蓋シ大ニ因アリ一ハ製絲教育ノ皆無ナルト一ハ該業ニ對スル金融機關ノ欠乏ナルトニアリ故ニ本縣下製絲業ヲ改良スルニハ先ツ左ノ數件ヲ勵行スル事ヲ必要トス

縣下ヲ南北兩部ニ分チ各一部ニ一ヶ所ノ工女傳習所ヲ設立スルコト
五十人繰以上ノ製絲場ニシテ可成新式ノ諸機關ヲ備エタルモノニ一ヶ所一ヶ年凡ソ千五百圓内外ノ補助金ヲ與ヘ素養經驗アル現業長並ニ教師ヲ聘雇シ是カ教習ヲ掌ラシメ六十日間ヲ以テ一期トシ部内各製絲家ヨリ其釜數ニ應シ二名以上五名以下ノ工女ヲ招集シ養繭索緒ヨリ繰絲轉繰ノ技ニ至ルマテ悉ク之ヲ傳習セシメ一期ヲ了ル毎ニ交互入所セシムルコト
製絲巡迴教師ヲ置キ縣下一般ノ生絲ヲ改良セシメ併セテ一定ノ製絲ヲ多量ニ且ツ廉價ニ製出スルコトヲ教習セシムルコト
製絲業ニ熟達シタル知名ノ士ヲ聘シ縣下各工場ヲ巡視セシメ建築流鏝及諸機械ノ構造ノ改良ヲ促

サシメ且ツ工女技術ヲ教習シ併セテ工女傳習所及ヒ協同荷造所ヲ監督セシムルコト
協同荷造所ヲ設ケシムルコト

本縣小製絲家ハ各個ニ小數ノ荷物ヲ販賣スルノ弊アリ今是ヲ矯正スルニハ一郡或ハ二郡ヲ區域トシ適宜ノ場所ニ於テ協同荷造所ヲ設ケシメ適當ノ技術者ヲ置キ品位ノ甄別荷造ノ方法等ヲ一定セシメ同一ノ商標ヲ付シ横濱ニ輸出セシムルコト、ス尤モ一ヶ所一ヶ年百個以上ヲ荷造スル所ニハ一個ニ付二圓以上ノ補助金ヲ與フルコト
製絲業ニ對スル金融機關ヲ設ケル事

本縣下製絲業ニ對スル一般ノ金融ハ頗ル不備ナルヲ以テ自ラ一ヶ年ノ營業ヲ經營スル能ハサルモノアリ依テ適當ノ法ヲ設ケ地方銀行或ハ橫濱賣込問屋ヲシテ管易ニ前爲替及ヒ荷爲替ノ途ヲ開カシムルコト

以上ノ四項ヲ實行スルニ至ラハ縣下製絲ノ面目ヲ一新シ製品ヲ精美ニシ相當ノ利益ヲ得ルハ甚タ易々タルノ業ナルヲ信ス殊ニ本縣下ハ原繭豐富ニシテ全國屈指ノ製産地ナルカ上ニ燃料頗ル廉ニ工銀亦貴カラス如斯地ノ理人ノ和最モ斯業ニ適切ナル邦士ヲシテ東北地方製絲業ノ中心タラシムルモ亦敢テ難事ニ非ラサルヘシ

○宮城縣陶器製造及原料調査報告(第一回)

東京工業學校教授

細 木 松 之 助

一、加美郡宮崎村字阿夷之澤

存在量 附近ニ露出セルモノヨリ推測スルニ頗ル多量ナルカ如クニセラ製造ノ原料タルニ足ルヘシ

品 質

ハ一定ナラスシテ地面ニ露出セル部分ハ或ハ土砂ノ爲或ハ鉄氣ノ爲ノ稍不良ナリト雖モ地下ニアレモノハ純白ナル部分多クシテ當時堀開實視シタル部分ト地下ノ深所ニ在ルモノ、間ニ大差ナキ時ハ製造用ニ堪ユヘキガ如シ

一、同村字宇土澤

存在量 凡三十年間モ採堀セサル爲ノ地下ニ埋没シテ充分之ヲ測知シ難シト雖モ數日ヲ費ヤシテ之ヲ試堀セハ其量ヲ推知シ得ヘシ

品 質

白色ニシテ堅硬ナラス硫化鉄ヲ混有スト雖トモ水鏡法ニヨリテ之ヲ除去スルヲ得ヘケレハ又製造用ニ供スルニ足ルヘシ

一、同村字砥澤

存在量 ハ精密ニ之ヲ知ル能ハスト雖モ近傍山腹ニ露出セル量ヨリ推測スルモ其多量ナル明ナリ
品 質 外部ニ露出セルモノハ土砂鉄氣等ノ浸入シタル爲品位劣等ナレモ試堀シテ下部ヨリ得タルモノハ白色ナル堅石ニシテ普通ノ磁器ヲ製スルニ足ルヘシ

一、同村字山毛標筋

存在量 ハ阿夷ノ澤砥澤ノ如ク多量ナラサルカ如シト雖トモ蓋シ少量ニアラス探ツテ原料トナスニ足ルヘシ

品質 多少鉄氣ノ浸入シテ品質ヲ害セル部分アリト雖モ其質軟カナルヲ以テ容易ニ之ヲ除去シ得ヘキヲ以テ白色ノ部分ヲ撰ンテ之ヲ用フレハ頗ル可ナルヘシ

一、栗原郡文字村字津花

存在量 維新以前ハ之ヲ切籠ニ送り現今ニ在テハ細倉鑛山ニ送りテ白煉瓦ヲ造ルト云フ其採掘場ニ現出セル部分甚ク大ナラスト雖トモ近傍ノ澤ニ露出セル個所頗ル廣大ニシテ其量ノ巨額ナルヲ知ルヘシ

品質 白色ノ粘土ニシテ鉄氣少ナク頗ル可ナルヘシ

一、同村字海草

存在量 川岸ニ沿ヒ厚サ凡三尺ノ脉ヲナシテ露出セリ精確ニ之ヲ知ル能ハスト雖トモ蓋シ其量甚ク大ナラサルヘシ

品質 脉ノ部分ニヨリテ一定セスト雖トモ良好ナル部分ハ純白ニシテ頗ル良品ナリ

以上述フル所ハ短時間ノ調査ニ係レル畧報ニ過キスシテ殊ニ土石存在量ノ如キハ精密ナル測量ヲナスニ非レハ之ヲ確知シ難キモノトス斯ノ如キハ時日ト經費ノ許サ、ル所ナルヲ以テ主トシテ表面ヨリ觀測セル狀況ヲ陳述セシモノナリ又品質ノ如キハ充分ナル化學分析ヲ施シタル後試驗燒ヲナシテ始メテ其良否ヲ確知スヘキモノニシテ單ニ外觀ヨリ速断スヘキモノニアラス上ニ述フル所ハ只從來ノ經驗ニヨリテ判断セル所ニシテ現品到來ノ上本校ニ於テ分析ヲ施シ試驗的ニ物品ヲ製造シタル後其成績ハ

更ニ第二回報告トシテ提出セントス

一、仙臺市堤町

堤燒ハ井、水鑿、火鉢ノ類ヲ首トシテ廉價ナル粗雜品ナリ其黒藥ノ如キ稍可ナルカ如シト雖モ熔融未タ其度ヲ得サルヲ以テ表面平滑ナラス然レトモ少シク之ヲ改良スレハ都人ノ嗜好ニ適スヘキモノトナスコト敢テ難キニアラサルナリ然レモ其製法ノ粗畧ナルカ爲素地ノ精美ナラサルコト、築窰ノ不完全ナルカ爲製造費ノ少ナラサルト製品ニ欠点ヲ生スルコト、陶磁器熔融ノ學理ニ暗キカ爲強火ノ爲メニ製品ヲ傷損スルコト、釉藥着色ノ學理ニ通セサルカ爲色ノ變化ヲ生スルコト能ハサル等ハ堤燒ニ於ケル欠点ノ主ナルモノニシテ此等ノ諸点ヲ改良スルキハ堤燒ノ面目ヲ一變シテ又今日ノ如キ粗品ヲササルニ至ルヘシ即チ斯クスレハ先ツ其製品ニ變化ヲ生シテ常ニ新嗜好ニ投スヘキモノトナリ上流ノ使用品タルニ適スヘク且其製法及ヒ窰ノ改良ニヨリテ製造費ヲ減少シ依テ以テ一方ニハ其販路ヲ擴メ又一方ニ於テハ製造家自身ノ利益ヲ大ナラシムヘシ然リト雖モ學理應用ノ如キハ現今堤燒製造家ノ如キ知能ノ程度ニ在テハ甚月ヲ期シテ親シク學術家ノ指導ヲ待ツニアラサレハ直チニ之ヲ實行シ難シト雖トモ築窰ノ改良ノ如キハ容易ニ實施シ得ヘキモノトス即チ堤燒製造者ヲ東京ニ派出シ親シク東京工業學校ニ於ケル石炭窰ヲ實見シ且其燒方ヲ見習ハシメ之ヲ堤燒窰ノ一部ニ應用シテ從來使用セル松薪ニ代用スルニ廉價ニシテ火力強キ石炭ヲ使用セハ製造費ヲ減少スルヲ頗ル大ナルヘシ

附言東京工業學校石炭燒試驗ニ關スル報告ハ農商務省商工局臨時報告明治三十二年第四冊ニア

○宮城縣製紙及原料ノ栽培ニ關スル調査報告

製紙業調査囑託

野村彌久馬

抑モ製紙業ハ農及蠶業ノ副業トシテ最モ適當ナルモノニシテ其所以ハ四季共ニ就業スル事ヲ得ルモ冬
 春間ニ製造ナシタルモノト夏秋間ニ製造ナシタルモノトハ同種ノ原料其他配合物等相同シキモノヲ用
 ニルト雖モ冬春間ニ製造ナシタル品位ハ夏秋製造ノモノニ比スレハ數等相勝レルモノナルヲ以テ從テ
 其價格モ又貴キモノトス故ニ製紙ノ期節ハ冬春ヲ以テ適當ナリトス

當縣下ノ如キ農業及蠶業ノ旺ンナル土地ニアリテ其餘隙(即チ冬春)ニ於テ製紙ヲ副業トナスハ最モ有
 益ナルモノト信ス然ルニ當縣下ハ古來ヨリ該業ニ從事シ居ルモノ尠ナカラスト雖モ微々トシテ振ハサ
 ル所以ハ現今使用シツ、アル紙漉諸器具ノ不完全ナル故ニ製紙業ニ終日勞動ナスモ其抄造高僅少ニシ
 テ得ル所ノ利益モ亦少ナシ從テ食費ヲ支フルニ足ラス依テ該業タルヤ婦女子ノ内職ニ適シ一家ノ本業
 トナスニ足ラサルモノ、如ク思惟シ居ルモノ尠ナカラス從來自家ニ於テ使用シ來リタルモノ、外他ニ
 適當ナル器具ナキモノト思料シツ、舊習ノ儘之ニ改良ヲ加ヘサルノ致ス所トス

斯業諸器具ノ改良ハ大ニ抄紙ノ勞費ヲ省キ半紙八枚漉美濃紙六枚漉トナサハ其一日ノ抄造高ヲ增加ス
 ル事舊來ノ法ノモノニ數倍スルノミナラス紙ノ品位ヲ改メ需用ニ適スルモノヲ抄造スルニ至ル現今當
 縣下製紙業ニ從事シ居ルモノハ概シテ薄資本家多ク目下ノ有様ニテハ一時ニ諸器具ヲ改良ナスノ費額
 ニ苦シミ其恰當ナルヲ認ムルモ之ヲ改製スル事能ハサルモノアラン依テ之ヲ決行セント欲セハ宜シク
 縣若クハ郡ニ於テ器具調製費ノ補助ヲナスカ將又他ニ適當ナル方法ヲ設ケ獎勵ナサ、ルヘカラス然レ

トモ此ノ器具改良ヲナスニハ縣内ニ於テ二三所ノ地ニ製紙傳習所ヲ設ケ相當ノ教師ヲ雇入レ該器具ノ
使用法及原料表熟其他製紙ニ關スル必要ナル事ヲ實地練習ナサシメ以テ職工ヲ養成シ而シテ器具ノ改
良ニ着手スヘシ

製造スル紙類ハ如何ナルモノモ需用アリト雖モ現時何レノ地ニテモ需用ノ最モ多キハ美濃紙(原料楮
及三極ノモノ)半紙(原料全上)トス障子紙モ需用ナキニアラサレハ此ノ種ノ紙類ヲ製造ナスヲ適當ナ
ルモノトシテ何レノ地タリトモ農業ニ從事スル所ニハ其副業トシテ適セサル所ナシ

然ルニ當縣下ニ於テ紙類ノ賣買ニ一種ノ習慣アリ美濃紙及半紙ノ四方ヲ切斷セシ製造人ヨリ紙商人若
クハ仲買人ニ賣却シツ、アリ若シ之ヲ製造者ニ於テ需用ニ適スル丈ケノ方寸ニ切斷シ紙商人ニ賣ツン
トスルモ紙商人ニ於テハ其紙類ノ買入ヲナス然ルニ紙商人ヨリ之ヲ他ノ需用者ニ賣却ナス場合ハ多
ク需用ニ適スル方寸ニ四方ノ縁ヲ切斷シ其切斷ノ屑ハ之ヲ製造者ニ賣却ナシ意外ノ利益ヲ紙商人ニ於テ

重ク居レリ是レ蓋タ製造人ノ不利益ナルノミナラス器具改良上ニ最モ妨害ヲナスモノトス何ントナレ
ハ等紙八枚漉美濃紙六枚漉ノ楮策ニ改良ナセハ自然需用ニ適スル方寸ニ四方ヲ切斷ナセハ從來ノ一枚
漉ノモノ、如ク其儘賣却ナス事能ハサル故ニ從來ノ如ク切斷ナシタル紙類ヲ紙商人ニ於テ買入ナサ、
レハ製造人ハ止ヲ得ス器具改良ヲ實行スル事能ハサルノ傾向アリ依テ之カ習慣ヲ改ムルニハ一ノ制裁

ヲ設ケルノ必要ナルヲ認メタリ
楮及三極ニ關スル調査ヲナシタルニ楮ノ如キハ蠶業ノ振ハサル以副ニアリテハ各所ニ栽培ナシアリタ
レトモ近來蠶業ノ盛ナルニ從ヒ桑ノ栽培多ク爲メニ楮ヲ栽培ナスモノナク舊來栽培ナシアリタルモノ
モ年ヲ經ルニ從ヒ其株腐朽シ現今非常ニ其産額ヲ減シタリ今製紙業ヲ盛ンナラシメント欲セハ之ニ用
ユル原料ヲ繁殖セシメサル可カラス當縣下ニ於テ之レカ原料ヲ栽培ナシ製紙業者ニ供用ナサシメ而シ

テ餘餘生セシ場合之レヲ管外ニ輸出ナスモ其購求者少ナキニアラス而シテ楮及三極ヲ栽培ナス土地ハ
桑若シハ麥ヲ栽培ナス如キ上畑ヲ用ヘサルモ決シテ發生セサルナキノミナラス其肥料ノ如キモ天然ノ
糞草ヲ施セハ足ル栽培容易ニシテ其收穫高他ノ作物ヨリモ多クカ故ニ實ニ之レカ栽培ノ獎勵ヲナサ、
ルヘカラス今縣下各郡ヲ巡回ナシ實地ヲ調査スルニ何レノ郡ニアリテモ其栽培ニ適セサル所ナク依テ
之レカ栽培ノ獎勵法ヲ設ケ(假令ハ楮三極千本以上栽培ナスモノニハ一)其産額ノ増加ヲ見ルニ至ラン
條々別紙ニ之レカ栽培法ヲ明記シテ參考ニ資ス

我邦紙業ノ漸次盛大ニ趨キ此ノ如キ海外各國ニ賞用セラレ日ニ需用ヲ増加スルニ至リシ所以ハ西洋紙
ニ比シ強靱力ニ富ミテ滑澤緻密保存ニ耐ユルニアリ故ニ此點ニ於テハ日本紙ハ字内ニ絶冠スリ設令製
造ノ規模産額ハ彼ノ西洋紙ニ一步ヲ譲ルトスルモ數百年來我邦手漉の製造術ハ巧妙精練到底彼等ノ摸
倣シ得ヘキモノニアラス之レ海外交通ノ頻繁ニ趨クニ從ヒ益々需用ヲ増加スル所以ナリ去レハ吾製紙
家タルモノハ此ニ留意シテ自カラ進ンテ製紙器械ヲ改良ナシ以テ其業ヲ容易ナラシメ其産額ヲ増加セ
シムルハ目下ノ急務ナリ

今般當縣下ヲ巡回シ製紙業ノ有様ヲ調査シタルニ原料表漉等ニ於テハ不完全ナル點ヲ認メサレシモ其
紙漉器具ニ於テハ仙臺市附近ニ二三ノ完全シタルモノヲ見受ケタルノミニシテ他ハ皆不完全ナルモ
ノ、ミ使用ナレツ、アルナリ此紙漉器械ノ不完ハ大ニ抄紙ノ勞費ニ關シ且ツ製産額ニ關係ヲ有スル
モノナルヲ以テ一日モ忽諾ニ付スヘカラス依テ當縣下ニ使用シツ、アル漉簀及漉桁ノ如キハ數十年以
前ヨリ使用シ來リタルモノニシテ一枚漉若シハ二枚漉ノモノ而已ナリ此一枚漉及二枚漉器械ヲ以テ一
日一人漉揚シル枚數ハ六七百枚ニ過キサルナリ之レヲ高知縣ニ使用シツ、アル半紙ハ八枚漉美濃紙ハ
六枚漉ニ改良セハ一日ニ三千枚乃至四千枚位ハ容易ニ漉揚クル事ヲ得ルナリ實ニ其勞働力ヲ省クコト

ニ比シ強靱力ニ富ミテ滑澤緻密保存ニ耐ユルニアリ故ニ此點ニ於テハ日本紙ハ字内ニ絶冠スリ設令製
造ノ規模産額ハ彼ノ西洋紙ニ一步ヲ譲ルトスルモ數百年來我邦手漉の製造術ハ巧妙精練到底彼等ノ摸
倣シ得ヘキモノニアラス之レ海外交通ノ頻繁ニ趨クニ從ヒ益々需用ヲ増加スル所以ナリ去レハ吾製紙
家タルモノハ此ニ留意シテ自カラ進ンテ製紙器械ヲ改良ナシ以テ其業ヲ容易ナラシメ其産額ヲ増加セ
シムルハ目下ノ急務ナリ

今般當縣下ヲ巡回シ製紙業ノ有様ヲ調査シタルニ原料表漉等ニ於テハ不完全ナル點ヲ認メサレシモ其
紙漉器具ニ於テハ仙臺市附近ニ二三ノ完全シタルモノヲ見受ケタルノミニシテ他ハ皆不完全ナルモ
ノ、ミ使用ナレツ、アルナリ此紙漉器械ノ不完ハ大ニ抄紙ノ勞費ニ關シ且ツ製産額ニ關係ヲ有スル
モノナルヲ以テ一日モ忽諾ニ付スヘカラス依テ當縣下ニ使用シツ、アル漉簀及漉桁ノ如キハ數十年以
前ヨリ使用シ來リタルモノニシテ一枚漉若シハ二枚漉ノモノ而已ナリ此一枚漉及二枚漉器械ヲ以テ一
日一人漉揚シル枚數ハ六七百枚ニ過キサルナリ之レヲ高知縣ニ使用シツ、アル半紙ハ八枚漉美濃紙ハ
六枚漉ニ改良セハ一日ニ三千枚乃至四千枚位ハ容易ニ漉揚クル事ヲ得ルナリ實ニ其勞働力ヲ省クコト

今般當縣下ヲ巡回シ製紙業ノ有様ヲ調査シタルニ原料表漉等ニ於テハ不完全ナル點ヲ認メサレシモ其
紙漉器具ニ於テハ仙臺市附近ニ二三ノ完全シタルモノヲ見受ケタルノミニシテ他ハ皆不完全ナルモ
ノ、ミ使用ナレツ、アルナリ此紙漉器械ノ不完ハ大ニ抄紙ノ勞費ニ關シ且ツ製産額ニ關係ヲ有スル
モノナルヲ以テ一日モ忽諾ニ付スヘカラス依テ當縣下ニ使用シツ、アル漉簀及漉桁ノ如キハ數十年以
前ヨリ使用シ來リタルモノニシテ一枚漉若シハ二枚漉ノモノ而已ナリ此一枚漉及二枚漉器械ヲ以テ一
日一人漉揚シル枚數ハ六七百枚ニ過キサルナリ之レヲ高知縣ニ使用シツ、アル半紙ハ八枚漉美濃紙ハ
六枚漉ニ改良セハ一日ニ三千枚乃至四千枚位ハ容易ニ漉揚クル事ヲ得ルナリ實ニ其勞働力ヲ省クコト

今般當縣下ヲ巡回シ製紙業ノ有様ヲ調査シタルニ原料表漉等ニ於テハ不完全ナル點ヲ認メサレシモ其
紙漉器具ニ於テハ仙臺市附近ニ二三ノ完全シタルモノヲ見受ケタルノミニシテ他ハ皆不完全ナルモ
ノ、ミ使用ナレツ、アルナリ此紙漉器械ノ不完ハ大ニ抄紙ノ勞費ニ關シ且ツ製産額ニ關係ヲ有スル
モノナルヲ以テ一日モ忽諾ニ付スヘカラス依テ當縣下ニ使用シツ、アル漉簀及漉桁ノ如キハ數十年以
前ヨリ使用シ來リタルモノニシテ一枚漉若シハ二枚漉ノモノ而已ナリ此一枚漉及二枚漉器械ヲ以テ一
日一人漉揚シル枚數ハ六七百枚ニ過キサルナリ之レヲ高知縣ニ使用シツ、アル半紙ハ八枚漉美濃紙ハ
六枚漉ニ改良セハ一日ニ三千枚乃至四千枚位ハ容易ニ漉揚クル事ヲ得ルナリ實ニ其勞働力ヲ省クコト

今般當縣下ヲ巡回シ製紙業ノ有様ヲ調査シタルニ原料表漉等ニ於テハ不完全ナル點ヲ認メサレシモ其
紙漉器具ニ於テハ仙臺市附近ニ二三ノ完全シタルモノヲ見受ケタルノミニシテ他ハ皆不完全ナルモ
ノ、ミ使用ナレツ、アルナリ此紙漉器械ノ不完ハ大ニ抄紙ノ勞費ニ關シ且ツ製産額ニ關係ヲ有スル
モノナルヲ以テ一日モ忽諾ニ付スヘカラス依テ當縣下ニ使用シツ、アル漉簀及漉桁ノ如キハ數十年以
前ヨリ使用シ來リタルモノニシテ一枚漉若シハ二枚漉ノモノ而已ナリ此一枚漉及二枚漉器械ヲ以テ一
日一人漉揚シル枚數ハ六七百枚ニ過キサルナリ之レヲ高知縣ニ使用シツ、アル半紙ハ八枚漉美濃紙ハ
六枚漉ニ改良セハ一日ニ三千枚乃至四千枚位ハ容易ニ漉揚クル事ヲ得ルナリ實ニ其勞働力ヲ省クコト

鮮少ニアラサルナリ就中澆質ノ精粗ハ紙ノ品位ニ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ大ニ注意セサル可カラ
 ス今縣下各所ニ使用セツ、アル澆質大概蓋ノ桿ヲ以テ製シタルモノナリ此蓋製ノモノニテ楮製紙類ヲ
 製造スルハ決シテ不可ナキモ目下使用シ居ル等、蓋大ナルヲ以テ自然縹面ニ粗造ナル質ノ目ヲ顯ハシ
 其紙質善良ナルモ澆質ノ爲メ品位ヲ落シ居ルモノアリ蓋ノ大サハ紙ノ厚薄ニヨリ多少差異アリト雖モ
 一寸間ニ貳十本以上貳十五六本位ヲ適當トス又美濃紙及ヒ三椏製ノ紙ヲ抄造セント欲セハ之レニ用ユ
 ル澆質ハ竹ノむごヲ用ユルヘシ此むごハ一寸間ニ四十五本乃至六十本ノモノヲ用ユヘシ之レ亦紙ノ厚
 薄ニヨリテ多少ノ差異アリ澆紙ヲ抄造セント欲セハ可成的小サキむごヲ用ユルヲ善トス縹絲ハ絹絲ト
 ス馬毛ハ水漏洩速ナルモ幅員廣キモノニハ馬毛ヲ縹カサル可カラス其縹目ハ節ヲ生シ紙面ニ其痕ヲ留
 ムルモノトス

張板ハ其面平滑ナラサル可カラス然ラサレハ大ニ製紙ノ光澤ヲ減殺シ之ヲ製作スルノ木材ハ其土地ニ
 因リ自ラ便否アルモ楡ヲ第一トシ桂之ニ次キ椏ヲ第三銀杏ヲ第四松ヲ第五トス而シテ其斷ヘス使用ス
 ルモノハ年ニ一二回其面ヲ鉋削シテ平滑ニシ又月ニ一回之ヲ洗ヒ綿布ヲ以テ摩スヘシ其面ニ汚物ノ附
 着シテ平滑ナラサルモノハ製紙モ亦其光澤ヲ失スルモノトス

張板ニ貼用スルニ際シ當縣下ニ於テ多クハ竹皮製ノ刷毛ヲ以テシ其構造粗末且形チ少ナルヲ以テ非常
 ニ手數ヲ要スルノミナラス紙面粗荒ナラシム之ヲ鹿毛又ハ馬毛ヲ以テ製シタル刷毛ヲ用ユルニ至
 リナハ大ニ製紙ノ面目ヲ改ムルニ至ルナリ

原料ノ纖維ヲ打截スルニ丸キ棒ヲ使用シツ、アルナリ之レ徒ラニ無益ノ勞力ヲ費シ居ルモノニシテ此
 棒ヲ角ナル(量目三四百目位)モノニ改ムレハ容易ニ纖維ヲ打截スルコトヲ得ルモノナリ此棒ニ用ユル木
 ハ樅ヲ以テ造ルヘシ而シテ打板ノ面上凹凸無之様平滑ニ鉋削シ盤上ニアル原料ニ打棒ノ不平均ニ當ラ

※機注意セサレハ一部打截セサルモノアルハ紙ノ品位ヲ損スレハナリ

澆槽ニ原料ヲ投入スル定量ハ厚薄紙類ニ依テ異レトモ大抵美濃紙六枚澆ノモノニシテ貳十四五枚澆揚
 クレ丈ケノ原料ヲ投入スヘシ其原料ヲ多量ニ投入シ槽中ノ液餘リ濃厚ニ過クルトキハ槽中ノ此所彼所
 ニ纖維凝集シテ澆造ノ際紙面厚薄一様ナラサルモノナレハシ既ニ原料ヲ混入シタルハ馬鉄形ノモノ
 ニテ充分能ク之ヲ分離混濟セシメ液汁中ニ纖維ノ凝集スルコトナカラシムヘシ然レ後布袋ニ包ミアル所
 ノノリヲ捺リ入レテ更ニ能ク攪拌スヘシ準備整フテ初メ澆機ニ掛ケテ澆クモノトス澆クニ當リテ厚
 葉紙類ニアリテハ深ク汲ミ薄葉紙類ニアリテハ輕ク汲ムヲ通例トスレモ此ノ澆造ノ巧拙ニ至リテハ最
 モ實地ノ熟練ヲ要スルモノニシテ其恰當ナル程度ハ直接ノ傳習ニ由ルノ外ナレ例令ハ障子紙貳千枚ノ
 量目一貫二百目ノ紙ヲ製セントスルニ一篋ニ槽中ノ水十汲ミヲ要シ又八百目ノ紙ヲ製スルモ同シク十
 汲ミヲ要スルカ如シ故ニ紙質ノ厚薄輕重ノ判ル、ハ篋桁ノ槽水中ニ入ルノ深淺ニ由リテ定マレモ篋桁
 ナ挿ルノ度數ニハ拘ワラサルナリ如此薄葉紙類ヲ澆クニモ同シク十汲ミヲ要スル所以ハ各紙共ニ紙面
 ニ厚薄ノ偏ナカラシメン爲メ必ス一定ノ度數ヲ要スルナリ故ニ厚紙ハ薄紙ニ比シテ實際深ク汲ムニモ
 係ハラス薄紙ヨリハ却テ澆造ノ勞少ナクシテ薄紙ハ勞力ト手練トヲ多ク要スルナリ是レ近時改良薄葉
 紙類ノ重量ノ輕キニ比シテ紙價ノ貴キ所以ナリ

以上述ヘタル篋桁ハ幅員廣クスルハ從前澆キ來リタル澆方要領ニテハ當底紙トナラサル故ニ更ニ澆
 方ノ要領ヲ實地ニ就キ練習ヲ要ス然レモ此練習タルヤ極メテ容易ノモノナレモ幾多ノ日時ヲ費サ、ル
 ヲ得ヌ就テハ其練習ノ餘裕無之トセハ障子紙及美濃紙ヲ澆造スル篋桁ヲ四枚取リニ改良セハ唯ニ幅員
 ノ廣クナルノミニシテ從前澆方ノ要領ヲ異ニセスシテ充分紙類ノ製出スルヲ得ルナリ單ニ坐シテ澆居
 リタルヲ立チテ澆クノ蓋アリ此四枚澆ニ用ユル篋ハ一ト積ニ一枚ヲ用ユレハ足レリ從前ノ如ク貳枚若

クハ三枚ヲ用ユルノ必要ナシ其使用方ハ漉揚ケタル場合上柎ヲ取り糞ヲ少シク後ニ引キ手許ノ方ヲ五
 六歩位折返スヘシ之レ最モ緊要ナルコトニシテ乾燥板ニ貼リ付クル際容易ニ剝離シ得ルカ爲メノ便ナ計
 ルモノナリ之ヲ紙槽ノ後方ニ備ヘアル吸詰盤上ニ倒移シ其法糞ヲ掲ケテ手許ノ方ヨリ靜ニ前方ニ傾移
 スヘシ此際盤上ノ紙ニ糞ノ爲メニ空氣ヲ含マセテ多クノ氣泡ヲ生スルコトアリテ乾燥ノ際ニ紙面ニ皺
 ア生スルニ至ル注意スヘシ此法ニヨレハ從前ノ如ク一枚毎ニ七幅蘭杯ノ片ヲ以テ隔標スル要ナシ糞ノ
 糞リニ從前ハ竹ノ二歩位ノモノ付ケアリタリ之ヲ楡木ノ厚サ三歩幅六歩位(其形〇)ノモノ附著スヘシ
 之レ手許ヲ折返スニ小ナルモノニテハ折返シテ能ハス若シ折返スコト得ルモ其線直クナラス且ツ柎ヨ
 リ汲詰盤上ヘ移ス時ニ容易ナラシムルノ必要アリ依テ柎ノ上下ニ糞線ヲ入ル丈ケノ溝ヲ掘リ漉造ノ水
 水ノ兩端ヘ漉洩セサラシムベシ

楮ハ山畑ノ稍瘠セタル急斜面ニモ栽培ニ手ヲ竭ストキハ生育セザルコトナシ其最モ好ム所ハ傾斜ノ餘リ
 急ナラサル空氣日光ノ透過宜シキ場所ニテ山腹ノ上半部ニハ森林ヲ控ヘケル肥沃地トス森林ニ於テハ
 其落葉ノ年々朽敗シテ上面ヨリ養分ヲ斷ヘス流下シテ楮ノ肥料トナルモノナリ(松林アルハ楮ノ不適
 地ト知ルヘシ)雨多キ年ハ木ノ生長非常ニ盛ナルモ皮肉薄ク故ニ收穫鮮ナシ又旱天ニ逢フ時ハ平年
 ニ比シ生長遲緩ナレトモ皮肉却テ厚クシテ歩留リ割合ニ多シ旱魃ト雨天トハ共ニ楮ニ損害ヲ與フルモ
 ノニシテ皮肉ヲ腐敗セシメ疵傷ヲ生セシメ原料調整ノ際ニ當リ一々撰去セサルヘカラサル汚物ヲ生セ
 シムルモノナリ風ノ如キ亦然リ強風ニ逢ヘハ樹枝相擦リ甚タシキハ幹ヲ吹折ルニ至ルナリ故ニ栽培ニ
 當リテハ能ク風土ノ適否ヲ察知シテ後日ノ損害ヲ避ク様ナスコト必要ナリ
 養種ニハ種々ノ方法アレトモ就中根伏ヲ以テ適良ノ方法トス此根伏ハ良木ノ若キ根ヲ掘採シ長二三寸
 トナシ平地畑ヲ耕耘シテ丁專ニ整地シ畦條ニ頒ツテ三寸位ノ距離ニ埋メテ輕ク土ヲ被ヒ其上ニ馬糞又

ハ稍腐リタル稿ヲ散布シ置クトキハ(三月下旬頃)ニ伏セタルモノハ梅雨ノ頃ニハ早キモノハ既ニ發生
 スルニ至ルヘシ土用ニ至レハ大底皆發生シ終ルモノナリ此後落葉ノ頃迄ニハ除草耕耘施肥共ニ三四回
 行フヘシ肥料ニハ水肥ヲ施スヲ普通トス手入行届クトキハ秋末ニ至レハ長キ者ハ六尺位ニ達スヘシ之
 レヲ翌春本地ニ定植ス

楮苗ヲ栽植スルニハ春ニ於テナスヘシ其植付クヘキ距離及苗數ハ土地ノ肥沃ナルト瘠薄ナルトニヨリ
 ア一定セサレトモ先ツ普通平地畑ニアリテハ一坪ニ付四本山畑ニアリテハ五本ヲ適度トス乃チ瘠地ハ
 肥地ヨリ距離ヲ接近セシメテ苗數ヲ多ク要スルナリ苗ヲ採掘シテヨリ植付ツル迄ノ取扱ハ其根ヲ損傷
 セサル様ニ丁寧ニナシ且ツ根ノ干燥スルコトアルモ決シテ水ヲ俄カニ澆シヘカラス此際稿藎ナトヲ掩
 フテ保護シ置クヘシ本地ニ植ウルニハ先ツ適宜ノ穴ヲ穿テ根ヲ擴布シ土ヲ加フヘシ其年末ニハ
 地上五六寸ノ高サヨリ一切刈採ルヘシコノ收量ハ苗木購入ノ代價ヲ償却スルモノトス刈リ取ル場合ニ
 ハ根部ヲ堅ク踏付ケ動搖セサラシメテ切ロク馬蹄形トナスヘシ年内三回耕耘ヲ行フ初年ニハ第一回ハ
 梅雨第二回ハ土用第三回ハ初秋トシ植付ノ翌年ヨリハ第一回ハ春第二回梅雨第三回ハ土用ニ行フ毎回
 其株邊ニ生スル雜草殊ニ蔓草類ノ纏繞スルモノハ注意シテ之ヲ取り除キ兼テ肥料トシテ之ヲ用ヒ又ハ
 稿ノ如キモノヲ株邊ニ施布スヘシ但シ稿類トテモ煤煙ノ附着シタルモノヲ忌ム甚シキハ之カ爲メニ落
 葉スルコトアリ注意スヘシ

新ニ楮圃ヲ拓ク場合ニハ樹木ノ枝條殘株等ノ大ナルモノヲ除クノ外ハ其儘之ヲ存シ置キテ可ナリ後日
 耕耘ノトキ漸次ニ分解シテ養分トナルモノナリ楮ハ大概移植シテ八年間ヲ以生存ノ一期トナシカ如シ
 故ニ八年後ニ至リテハ正當ノ收穫ヲ望ミ難シ元ヨリ土地恰好ニシテ栽培丁寧ナルトキハ此ノ限リニア
 ラサルモノトス故ニ山間ナトノ瘠地ニ植ウルカ如キハ植付ノトキヨリ此ノ點ニ注意シテ八年ノ後ニ至

レハ之ニ代リテ生長スルモノアル様ニ栽培スルヲ要ス而シテ之カ方法トシテ他ノ地面ニ別ツテ植付
 シルカ又畑ノ中ニ於テ其衰ヘタルモノヲ撰シテ漸次ニ之ヲ改植スルカニ法何レカ其ノ一二居ラサルヘ
 カラス

收穫刈採ノ期ハ初冬落葉ノ頃ヨリ冬至迄ノ間ヲ適當トス若シ之ヨリモ早クシテ未タ落葉セサル中ニ於
 テスルトキハ其年新シキ小枝ヲ發生シ寒氣ニ傷メラレ仮合能ク生存スルコトアルモ翌春ニ至リ生長宜
 シカラサルモノナリ又晩キニ過ルモ新芽ノ動機已ニ發シテ後日生長スル新芽モ生長極メテ微弱トナルヘ
 ヲ故ニ刈採ノ時機ヲ失フトキハ其ノ損失大ナルヘシ刈ルニ當リテハ植付ノ初年ニ行ヒタルトハ異ニシ
 テ幹ノ生シタル部ヨリ株ニ接近シテ切ルヘシ長キトキハ株ノ形狀ヲ損シテ腐敗及枯死ノ媒介トナリテ
 命數ヲ短縮スルニ至ルヘシ收穫ノ量ハ土地肥瘠及植付后ノ年數及栽培法ノ精粗等ニヨリ差異アルモノ
 ニシテ一定セザレトモ普通通ノ山畑ニ於テハ一反歩ニ黒木二百貫黒皮四十貫白皮二十貫ヲ獲ルモノトス
 平地ニテハ山畑ヨリ多クハ肥沃ナルモノニシテ凡ソ二倍位ノ收量アルヲ常トス但シ之ハ八年間ノ平均
 ヲ見渡タルモノト知ルヘシ

楮ノ種類ハ麻葉、要楮、真楮等ニ分ツ其内要楮ハ外皮ニ黒色ト紫色ノモノトアリ此ノ種ハ縣内ニ栽培ス
 ルヲ適當ナリトス

由來三極ヲ紙ニ用ヒシ起因詳ナラズト雖モ靜岡縣ニ於テ有名ナル所ノ駿河半紙ノ原料ハ古來ヨリ之ヲ
 製紙ニ供シタル事ハ實ニ三極ニ資リタルヲ見テ知ルヘシ然ルニ三極皮精製上ニ改良ヲ加ヘ良質ノ紙類
 ヲ製造シテ需用ノ増加セシハ近年ノコトナリトス當初三極ヲ糞ルニ石灰若シクハ木灰汁ヲ以テシタル
 ヲリ纖維ニ黃色ヲ附シテ純白ノ紙トナラス且時日ヲ經ルニ從ヒ漸時赤色ヲ呈シ世人ノ好尚ニ適セザリ
 シカ明治十二三年ノ頃ニ當リ一度苛性曹達ノ蒸熟劑トシテ使用セサル、ニ至リテ忽チ製紙上ニ一大變

化ヲ來シ爰ニ始メテ三極纖維ノ純良ナル眞價ヲ知ルニ至レリ蓋シ三極ノ栽培セラル、ニ至リシコトハ
 楮ノ如ク餘リ久シキ事ニアラサルヘシト雖モ其眞價久シク見ラレサリシモ最早今日トナリテハ其眞價
 ヲ明知セラレ原料トシテ殆ント需用ニ不足ヲ告グルノ傾向トナレリサレハ從テ之カ栽培ハ將來益獎勵
 セサルヘカラス

三極ノ纖維ハ原料中最モ上等ノ位置ヲ占メ纖維緻密且ツ細カニシテ楮ノ如ク強カラズト雖モ紙トナシ
 テ光澤アリ今各種ノ改良紙ト稱スルモノハ大抵之ヲ使用セサルナシ三極紙ハ紙質ノ緻密ナル故ニ精巧
 ナル圖寫用紙トナスヲ得ヘク且ツ厚キモノハ洋筆ノ運行毫モ差支ナキヨリ洋紙ノ代用ヲナシ得ヘク又
 保存久シキニ堪ルヨリ公私ノ帳簿其他証券用紙等ニ最モ適用ナルモノトス然ルニ製紙家ニ於テ一ノ注
 意ヲ要スヘキハ三極ヲ石灰若シクハ木灰汁ヲ以テ糞ルトキハ純白トナリ難キコト栽培者ニ於テハ日光ノ
 害ヲ蒙リ往々傳染性ノ病毒ニ罹ル事等是ナリ

三極ハ寒暖ニ感スル事他ノ原料作物ノ如ク甚シカラサルカ如シト雖モ暖國ニ生スルモノト稍寒キ地方
 ニ生スルモノト其生長ヲ比較スルトキハ暖國ニテハ既ニ二年ノ後ニ於テ刈採シ得レトモ寒キ地方ニテ
 ハ三年ヲ經過スルニアラサレハ收穫スル能ハス且ツ土際ヨリ枝ヲ附スル部迄ノ間長短ノ差アルノミナ
 ラス幹長概シテ伸長セス寒サ甚シキ所ニテハ種子ヲ採取スル能ハサル所アリ故ニ三極ハ暖和ノ地ニ適
 スルハ言フ俟タサレトモ意外ニ光線ノ直射スルヲ忌ム故ニ種子發生ノ初ヨリ生長ノ後ニ至ル迄殆ント
 光線ハ必要ナシト謂フモ不可ナカルヘシ故ニ栽培地ハ深キ谿谷又ハ山岳ノ圍繞シテ日光ノ終日直射セ
 サル出所ニハ疎水ノ適度ナル稍濕潤ナル所ヲ宜シトス或ハ向陽ノ乾燥地ニ植ウルモアレトモ忽ニシテ
 枯死スルニ至ルモノナリ楮ト同シク雨天年ニハ生長速ナルモ皮肉薄クシテ歩留リ少ナク晴天多キ年ニ
 ハ生長割合ニ遲緩ナルモ皮肉厚クシテ歩留リ多キヲ常トス蓋殖ニハ實播株分挿木等アレトモ就中實播

ヲ以テ適良ノ方法トス現ニ一般採用スル所ノ者ハ此法ナリ其法先ツ熟圃ヲ耕耘シテ整地シタル後一反歩ニ付種子三升ノ割合ヲ以テ散播スヘシ其時期ハ春ノ彼岸頃ヨリ下種シタルトキハ水肥ヲ施シ土ヲ被シ尙其上ニ馬糞又ハ細斷稿ヲ散布シ置クヲ要ス既ニ述ヘタル如ク三種ハ光線ノ直射ヲ忌ヨリ苗畑ハ可成向陽乾燥ノ地ヲ避クルヲ良トス(麥ヲ蓄殖シタル畦ノ中央ニ蓄種スルモ良トス之レ自然ニ麥ノ發生ニ從ヒ日陰トナレハナリ)又播下ノ時ニ於テモ朝夕又ハ曇天ノ日ニ行フテ日中ヲ避クヘシ播キ終レハ稿又ハ藪ノ如キ者ニテ苗代ノ上ニテ日覆ヲナシ置キ時々注意シテ水ヲ與ヘテ乾燥ノ害ニ罹ラシムヘカラス發生スレハ時期ヲ見テ除草及引等ヲナシ組密ノ偏ナク平等ニ生長セシムヘシ一反歩ニ得タル所ノ苗數ニテ一町余歩ノ本地ニ定植スルニ足ル、シ

栽培スルニハ一年生ノ苗ヲ丁寧ニ根ヲ損傷セサル様ニ掘採リ一坪ニ付六本位ノ割合ニテ移植ス移植スルニハ能ク根ヲ擴布シテ彎曲スヘカラス之カ時期ハ春トス三種ノ生存期ハ之ヲ楮ニ比スレハ事情ニ由リテ差アルヘシト雖モ概シテ久シキニ堪ユルモノニシテ凡ソ二十五年間維持シ得ルモノナリ故ニ畑ノ中ニ於テ衰弱シタル者ヲ見ルトキハ時々改植スヘシ其他耕耘除草等ノ管理ハ楮ニ同シ收穫緩國ニアリテハ植付ノ當年若シクハ二年目ニハ既ニ刈採シ得ル者ナリ楮ハ二年生ノモノトナレハ纖維粗剛トナリテ上等紙ノ原料トナリ難キモノナレトモ三種ハ然ラス六七年ヲ經過シタル者ニテモ尙ホ差支ナキモノナリ故ニ刈採ノ際ニハ一株中ニ於テ大ナルモノヨリ順次ニ撰刈シテ小ナル者ヲ殘シ次年ノ成長ヲ待ツヘシ收穫ハ楮ト同シ一定セサレトモ普通一反歩ヨリ黒木三百貫黒皮八十貫白皮三十貫位ヲ得ルモノトス

三種ノ種類ハ大葉種(外皮褐色)小葉種(外皮鉛色)ノ二種アレトモ小葉種ヲ以テ縣下相當ノ地ニ栽植スルヲ可トス

明治三十三年三月二十日印刷

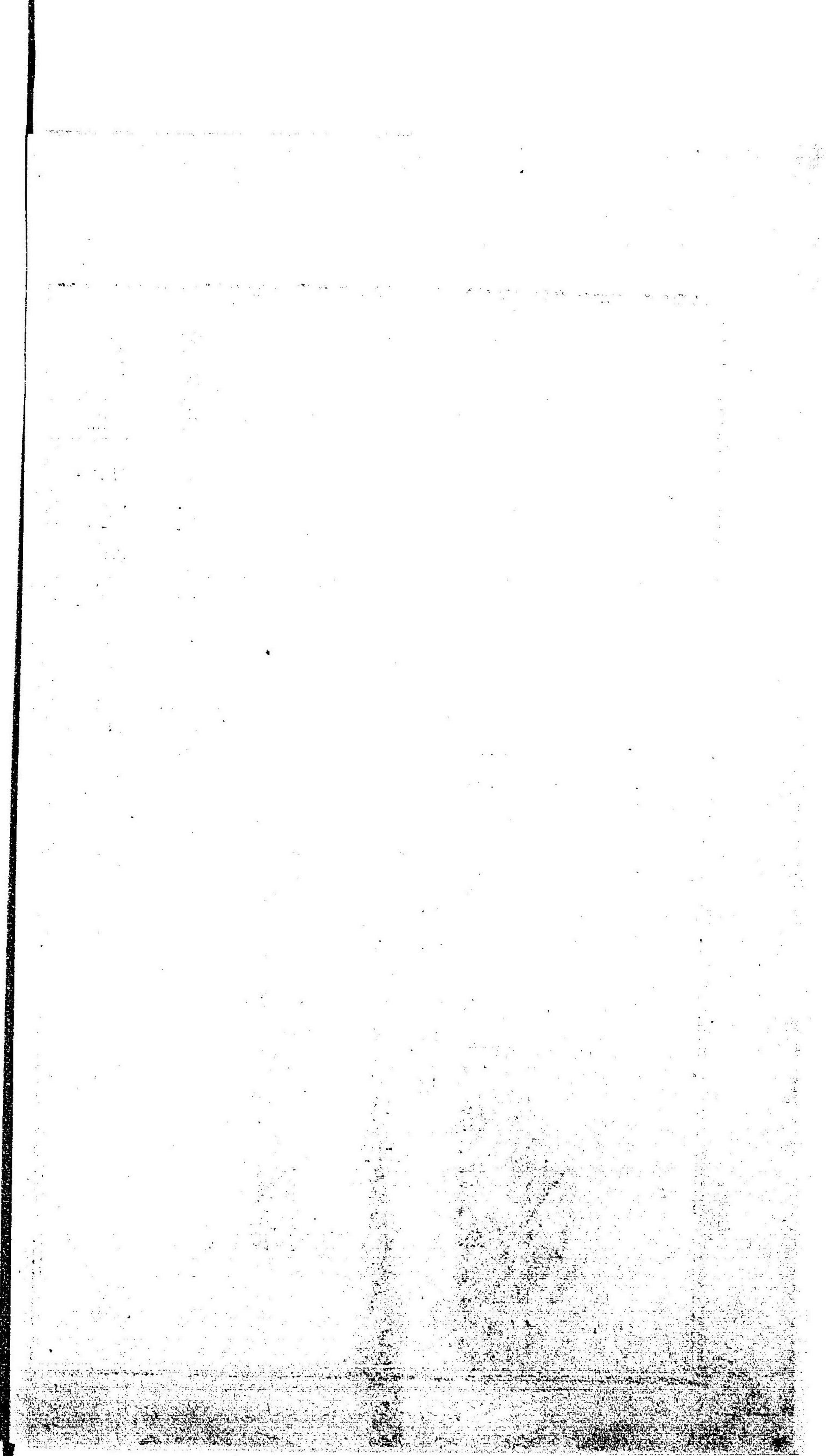
明治三十三年三月廿三日發行

宮城縣內務部第四課

宮城縣仙臺市國分町三丁目五十九番地

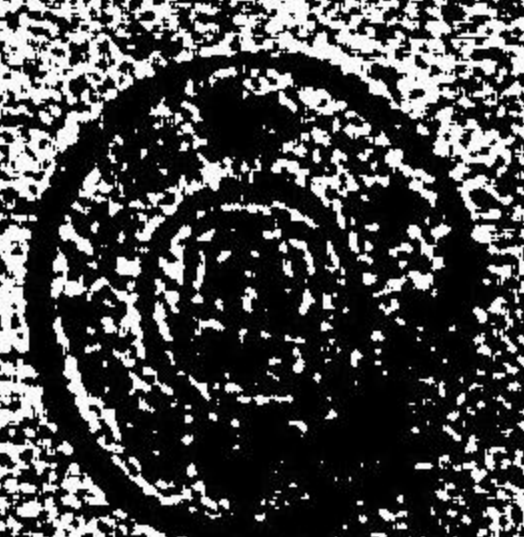
江馬活版所

印刷兼發賣人 江馬耕太郎



宮城県内務部
工業課
調査報告

宮城県内務部



065776-000-5

特20-720

折返生糸機械生糸陶器及原料製紙及原料調査報告

宮城県内務部

M33.3

CDA-0030

